



第90号

2017年9月8日

◆ 発行 ◆

名古屋労災職業病研究会

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階

TEL&FAX : 052-837-7420

e-mail : roushokuken@be.to

<http://nagoya-rosai.com/>



患者と家族の会の英国訪問団はマンチェスター郊外、スポドン溪谷に打ち捨てられたかつてのターナー・ブラザーズ・アスベスト社の石綿工場跡を訪問しました。(2017年7月5日)

90号目次

- ☆ 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会イギリス訪問団参加報告 P2~P10
- ★ FORGET-ME-NOT 私たちのことを忘れないで P10~P14
- ☆ SOS P14~P15
- ★ 事務局からのお知らせ P16

☆中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会イギリス訪問団参加報告



中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会は7月4日から9日まで20人からなる訪問団をイギリスに派遣し、労職研の成田も妻の美和子とともに参加しました。今回、現地で受け入れてくれた団体はイギリスのアスベスト被害者団体の全国ネットワーク「アスベスト被害者支援団体フォーラムUK (AVSGF-UK)」とそのメンバー団体・支援者の皆さんでした。イギリス各地の被害者団体は毎年7月に「アクション・メソテリオーマ(中皮腫)・デー」という中皮腫被害者を追悼し、アスベスト被害に対する注意喚起をするキャンペーンを行っています。今年のメソセリオーマ・デーは7月7日で、日本の患者と家族の会の派遣団はそれぞれ小グループに分かれて、北部イングランドの大都市マンチェスターとその周辺の街リバプール、バーミンガム、ダービー、シェフィールドで行われた集会に派遣され、現地の被害者団体と交流しました。

イギリス到着

訪問団一行は羽田、中部国際、関西国際の各空港を出発し、欧州各地を経由して7月4日の夕方、マンチェスター国際空港に集合しました。一足先にマンチェスター入りしていた関西労働者安全センターの酒井さん、愛媛労働安全衛生センターの白石さんに先導していただき、空港からマンチェスターピカデリー駅まで電車で移動し、駅から徒歩10分程のところにあるイビス・スタイルズ・マンチェスター・



ポートルランド・ホテルにチェックインしました。イビスホテルはロビーに巨大眼鏡があったり、天井から沢山の傘かぶら下げてあったりするホテルでした。チェックイン後、すでに到着していたイギリス、フランス、スペイン、イタリア、ベルギー、オーストラリア等の参加者とともにチャイニーズやインドなどの多国籍料理のバイキング形式のフードコートで夕食をとりました。

全体学習会

7月5日は朝から日本からの訪問団、アスベスト被害者支援団体フォーラムUKのメンバーとフランス2名、スペイン3名、ベルギー、イタリア、オーストラリアから各1名の参加者達で全体学習会を行いました。会場は私達の宿泊したホテルから徒歩10分程のところにあるスレーターゴードンという弁護士事務所でした。

勉強会はマンチェスター郊外のロッチデールから来ていただいた、61歳の女性中皮腫患者ビビアン・スウェインさんの体験談をうかがうことから始められました。ビビアンさんのお話で印象深かったのは、201



ビビアン・スウェインさん

5年8月に中皮腫の発症の診断を受けてからも、治療を受けながら南アフリカ旅行やアイスランドにオーロラを見に行くなど積極的に生活されている事と、「前向きな性格なので、人生を楽しまないといけないと思っています。中皮腫に私自身が覆われたくありません。私はビビアンです。これからも楽しいことを沢山経験したいです」と話しておられたことでした。ビビアンさんはNHSというイギリスの自己負担が少ないか無料の健康保険制度で中皮腫の治療を受けておられましたが、診断後とてもよくくださって素晴らしかったと言っておられ、かつて、金持ちが利用するプライベートホスピタルに比べ、予約がなかなか入らない等の悪評がたっていたNHSも改善されているのかなと思いました。私はどこでばく露をしたと考えておられますかと不躰な質問をビビアンさんにしましたが、夫が建具屋の仕事をしていてアスベストに作業着が汚染されていたことと、ロッチデールでかつて操業していたターナー・ブラザーズ・アスベスト社の工場の近くに住んでいたので環境からのばく露もあると考えているということでした。グレート・マンチェスター・アスベスト被害者支援グループの支援により、制度の申請の支援を受け、経済的な不安が取り除かれた事も良かったと述べておられました。



全体学習会

英国を拠点に世界でアスベスト禁止運動に取り組むローリー・カザンアレンさんの発表で印象に残ったのはイギリスの被害者の波についての発表でした。ローリーさんは、1922年に33歳で亡くなったイギリス最初のアスベスト関連疾患の患者、ロッチデールのターナー・ブラザーズ・アスベスト社で働いていたネリー・カーショさんや、ハルの造船所で断熱工として働き1983年に同僚達がアスベスト関連疾患で亡くなっていく中、ハル・アスベスト行動グループを設立し、1994年に自身も中皮腫の為に亡くなったリチャード・ディック・ジャクソンさん、2000年に51歳で中皮腫で亡くなった学校教師ジーナ・リースさんや他の方々のストーリーを彼らの写真をプロジェクターで投影しながら話してくれました。10代から20代前半に岐阜羽島のニチアスの工場に勤め、じん肺を患いニチアス相手に裁判で闘った後、いまなお支援活動を続ける山田益美さんや、「灰かな希望」という中皮腫の闘病記を書いた元建設現場監督員の橋本貞章さん、心膜中皮腫で亡くなった小学校教員四條昇さんの裁判を支援する同じく小学校教員だった妻の延子さん、同僚教員だった安藤さんや角田さんの姿が重なりました。

ロッチデールのアスベスト工場跡地の環境問題に取り組む「スポデン溪谷を救え」というキャンペーングループの活動家、ジェyson・アディさんからは汚染土壌に対するイギリス政府の方針は、民間による汚染土壌改善を促進するというもので、イギリスの環境ばく露に対する規制は弱すぎるという発表が行われました。

グラハム・ドリングさんからは全国9つの支援団体が集まって設立されているアスベスト被害者支援団体フォーラムUKの活動、アスベスト被害者を訪問して個別支援することから、民間保険会社・政府等による法的挑戦や制度改悪に対する全国規模の運動、訴訟と抗議、ロビー活動等の具体的な活動内容について報告がありました。

労働組合活動家のジョン・マククリーンさんから学校アスベストについて、中皮腫で亡くなった教員ジーナ・リースさんの夫のマイケルさんがはじめた「学校アスベスト」という団体があり活動をしていること、英国の学校の85%以上にまだアスベストがある状況にあること、中央政府や地方政府がそれを無視して過ごしている中、ご自身が所属する労働団体で教育省がきちんとアスベストに関する調査をするよう圧力をかける活動をしていることなどが報告

されました。

中皮腫専門看護師のロレイン・クリーチさんからは、メソテリオーマUKという中皮腫の為の全国的な専門家によるリソースセンターの活動が紹介されました。この慈善団体の運営は全て寄付、遺産寄付、募金、助成金により賄われ、全国の地域NHS病院（自己負担が少ないか無料の健康保険制度NHSが適用される医療機関）の、中皮腫専門看護師のネットワークにより、イギリスのどこでも全てのサービスを無料で提供しているということでした。メソテリオーマUKが、中皮腫患者に行われている様々な治験の情報を積極的に渡しているということも印象に残りました。

このほか、スレーターゴードンの弁護士、パトリック・ウォルシュさんによるイギリスの被害者補償についてのレクチャー、フランスのアスベスト被害者擁護全国会の会長から1996年に団体が設立され、40の地方組織と1800人の会員の代表が毎年10月にパリに集結してデモンストレーションを行っているという報告や、ベルギーのアスベスト被害者協会のエリック・ヨンケアさんから母親の中皮腫死亡に対してエタニット社の責任を問うたベルギー初のアスベスト裁判が3月に勝訴し、判決が確定したという報告が行われました。スペインの弁護士からもバルセロナ近郊のウラリタ社（旧エタニット社）の被害者の裁判が2012年に勝訴したことが報告され、オーストラリア、ウエスタン・オーストラリア州にあるアスベスト患者協会のグレッグ・デリュール医師からは、ウイトヌームのクロシドライト（青石綿）鉱山で採掘が行われていた頃の、町中がクロシドライト飛散の影響で青くなっている中で日常生活する人々のスナップ写真と共に今も続く健康被害と被害者団体の活動を紹介してくれました。グレッグさんは食事の時などに私の妻とよく話をしてくださり、妻のアスベスト問題への理解が深まりました。

アスベスト工場跡地の訪問

全体学習会の後、マンチェスター郊外のロッチデール、スポドン溪谷にあるかつてターナー・ブラザーズ・アスベスト社（後のターナ&ニューオール）の世界最大のアスベスト紡績工場跡地へタクシーに分乗して向かいました。1時間ほどのドライブでしたが急ブレーキ、急発進を繰り返す運転には辟易しました。車酔いする人が数人でしたが、私も車酔いしました。タクシーを降りて工場跡の周辺を撮影しながら歩いている時に回復しました。



石綿工場跡

TABの工場は窓ガラスが割れたままで放置され、防犯カメラは設置されていましたが、簡単な柵で周囲を囲っているだけで簡単に内部に侵入できるようになっている状態でした。廃工場建屋を含む29万㎡の工場敷地と工場の周辺は緑で覆われ、犬の散歩やウォーキングをしている人達を複数見かけました。

2004年頃、不動産開発業者によるTBA工場跡地に650軒の家屋と保育園、ビジネスパークなどの施設を建設する計画がありましたが、大量のアスベスト含有物質が跡地内に残され、敷地内森林もアスベスト粉じんに汚染されたままでした。キャンピンググループ「スポドン溪谷を救え」は、開発は人々の健康に重大なリスクを引き起こすと反対運動を行い、最終的に2011年、開発の計画申請がロッチデール議会に却下されたことにより計画は頓挫しました。現在、工場跡地は英領ヴァージン諸島に登録された会社によって所有されています。案内をしてくれた男性は、工場跡地をアスベストが飛散しないよう安全にする措置を

取ったうえで、アスベスト被害を伝えるメモリアルプレートにするべきだと言っていました。民間会社が跡地を所有しており、行政が関与しない状況では問題解決まで一筋縄ではいかないと思いました。

チェスターフィールド、ダービーへの派遣



クルックト・スパイア

私達、Dグループは、東海支部世話人の宇田川かほるさんと北陸支部世話人の野村美雪さんと共にチェスターフィールドに事務所があるダービーシャー・アスベスト・サポートチーム（DAST）が催した7月6日の歓迎会と翌7日のアクションメソテリオーマ（中皮腫）・デイに参加しました。DAST事務所のあるチェスターフィールドは、マンチェスターピカデリー駅から特急列車で1時間10分程の距離にあり、昔の石畳が残る美しい街です。チェスターフィールドの有名な名所は13世紀後半に建てられたセント・メアリ&オール・セインツ教会のクルックト・スパイア（ねじ曲がった尖塔）と毎週月曜日と金曜か土曜に石畳の広場で開かれるイギリスで最も大きい野外マーケットです。クルックト・スパイアは地上70メートル程の高さがあり、約3メートル以上傾いています。尖塔がしぼ

ったタオルのようにねじ曲がった原因は諸説あるようですが、建設時のミスがいくつも重なり、ねじれてしまいました。今ではチェスターフィールドのシンボルとなっています。チェスターフィールド近郊では、1980年代まで石炭の採掘が行われていました。私たちがチェスターフィールドを離れる日は土曜日で、ちょうど野外マーケットが開かれており、クルックト・スパイアと共に観光することが出来ました。

7月6日、マンチェスターピカデリー駅から特急に乗車しました。途中、シェフィールドに停車するのですが、ここから列車がスイッチバックするのを知らず、いままで走ってきた方向に列車が走り始めた時は肝を冷やしました。チェスターフィールド駅にはアスベスト根絶Tシャツを着た、DASTのコーディネーター、ジョアン・ゴードンさんが出迎えに来てくれました。ジョアンさんは大学で法律の勉強をしている時にアスベスト問題を知り、何かしたいと考え2003年からDASTの専従として働いています。私達が宿泊したカサホテル（Casa Hotel）は四つ星のホテルで部屋も大きく、清潔で無料ジムが利用でき快適でした。イギリス風のバイキング形式の朝食はおいしく、煮詰めた牛や豚の血から作ったブラックプディングも食べる事が出来ました。ホテルにチェックインした時、4人分の宿泊費を現金で払うのに私の手持ちのポンドがぎりぎりでした。幸い、ホテルの前にTescoがあり、ショッピングセンター内の両替所で旅行中に必要な現金を換金することができました。両替時、若い男性職員が円からポンドへの換金に慣れておらず、最初、非常に少ないポンド紙幣が出てきたときはびっくりしました。マンチェスター国際空港での換金時のレシートを見せ、間違っていることを指摘すると、理解してくれたので事なきを得ました。



チェスター・フィールドのマーケット



歓迎会場に広げられた三次元の絵

歓迎会

ホテルで着替えをして、タクシーで歓迎会の会場に向かいました。歓迎会はホワイトスワンという石造りのパブで行われました。パブの2階の会場には写真で撮ると立体的に見える大きな溶鉱炉やヘビの上に網の橋が架かっている不思議な絵が広げてありました。宇田川さんや私の妻は網の橋の上で落ちそうなポーズをとったりしました。

サンドイッチとフレンチフライの食事をいただいた後、集会が始まりました。日本人通訳のナッシュ・清子さんがついてくださいました。

最初にDASTについて説明してくれました。DASTは2002年に労働組合の安全衛生チームにより設立され、専従スタッフの被害者・家族宅訪問による各種社会制度の申請支援や裁判支援等の個別支援を行う他、お茶を飲みながらの交流会や報告会も定期的

に行っています。社会にアスベストに対する意識を持ってもらう為の活動も行っており、最近では一般住宅のどこにアスベストがあるかを知ってもらう為、家のどこにアスベストがあるかを示した模型を駅に展示する活動を行いました。

DASTの紹介の後に私と宇田川さんがあいさつをしました。私は中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会の説明をし「長い歴史を持つ、イギリスの被害者団体の活動に学びたいと思いイギリスにきました」と話しました。宇田川さんは教員だった夫、暁さんの病気の発症から労災申請、労災不支給取り消し裁判に至る経験を話しました。宇田川さんの話の後、「あなたは勇気がある」とDASTで活動する参加者の女性が感銘を受けたように宇田川さんに話かけていたのが印象的でした。

集会の最後に「私たちのことを忘れないで」という建具職人の若者が仕事に就き、結婚し、子供を育て、中皮腫を発症するまでの人生を歌にした曲がギター演奏で披露されました。その歌詞は多くのアスベスト疾患を患った被害者達と面談してきた私にとって共感できるものでした。イギリスの被災者達の歌でなく、日本の被害者達の歌と言ってもおかしくありません。私はアスベスト被害の現れ方が英国と日本でとても似通っていることを改めて実感しました。ここでは歌詞の始まりの部分のみを紹介し、巻末に全文を掲載します（P10～P14）。



歓迎会での集合写真

学校を出たら、首尾よく仕事がみつかった。

働く時間は長いけど、給料は悪くない。

まじめにやって、腕を磨けば、建具屋はしっかり稼げる。

豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。

何の憂いもない、バラ色の人生。

ダービーでのアクション・メソテリオーマ・デイへ参加



かつて鉄道車輛工場だったダービー
カレッジ



ダービーカレッジ内に掲げられた、
かつて鉄道工場だったことを示す絵

7月7日のDASTによる「アクション・メソテリオーマ（中皮腫）・デイ」は、ダービー駅のすぐ横にある、かつて鉄道車輛修理工場として使われ、現在はダービー大学の自習室・講堂として使用されているレンガ建物で行われました。集会が行われる講堂に至る廊下の入り口にはかつてここが鉄道車輛修理工場であったことを示す、蒸気機関車や労働者達が描かれた大きな絵が掲げられていました。多くの労働者達が石綿関連疾患を発症しただろうと想像しました。そのような場所でアクション・メソテリオーマ・デイの集会が行われ、未来を担う若者達が勉強をしているのは不思議な感じがしました。

会場ではこの日の為に製作された紙のアートワークの仕上げが行われていました。紙で作られた大きなバラの周りには209個の紙細工が置かれていました。紙細工は去年DASTがサポートした209人の被害者を表すもので、男性を表す紙細工にはブルーのリボンがつけられ、女性を表す紙細工にはピンクのリボンがつけられていました。私達が日本より持参した千羽鶴と共にこの日会場に飾られました。

ダービーでのメソテリオーマ・デーは、DASTコーディネーター、ジョアン・ゴードンさんの「アスベスト被害女性の顔」という短いスピーチから始まりました。ジョアンさんは、1924年に最初のアスベスト被害者になった元石綿紡織工場従業員の女性、ネリー・カーショさんや、51歳の時、中皮腫で亡くなった小学校教師の女性、ジーナ・リースさんの事例に触れた上で、「2015年、英国での女性のアスベスト被害者は407人に達しています。現在、女性の被害者の多くは、the third-wave of victims（第3波の被害者）です。アスベストを採掘、直接作業をしていなくてアスベストにばく露した人達です。私達は世界的にアスベストを禁止する必要があります、学校からアスベストを段階的に除去する必要があります」と聴衆を前に呼びかけました。



メソテリオーマ・デイの為に準備されたペーパーアート。紙のバラの周りの紙細工が被災者を表す。

ジョアンさんのスピーチの後に2つのモノローグ（独白）の朗読が行われました。1つ目

は「私はこれまで人生をずっと学校で過ごしてきました」と始まり、「何も気にせず、アスベスト板が貼られた壁にピンで掲示物を貼っていました。どうして誰も言ってくれなかったのでしょうか」と終わる教員の人生をテーマにしたもので、2つ目は「父は、機関車の仕事をしていたので、大きくなりそこで見習いの仕事をもらいました」と始まり、「どれだけ休みを取って同僚の葬儀に出席したことが。一緒に働いていたほとんどの同僚は、次々と亡くなりました。少なくとも10人になります」と終わる鉄道工場労働者の人生をテーマにしたものでした。これらのモノローグは、私も教員アスベスト被害裁判の支援に関わったり、旧国鉄や鉄道製造会社の労働者の相談を受けたりしてきた為、異国のアスベスト被害の話というより、日本で聞く話のような気がしてしまいました。



講演をするジェイソン・アディさん

モノローグ朗読の後、7月5日にマンチェスターで行われた全体学習会でもレクチャーしてくれた、ロッチデールのターナ・ブラザーズ・アスベスト社（TBA社）のアスベスト工場跡地の環境問題に取り組む「スポドン渓谷を救え」というグループの活動家、ジェイソン・アディさんによるキー・ノート・スピーチが行われました。ジェイソンさんの講演の内容は、TBA社と癒着していた医療専門家が今日でもメディア等に影響力を持っている問題や、アスベスト産業が行う市民運動へのスパイ問題、アスベストを今なお採掘・販売し続けているロシア等のプロフェッショナルアスベストロビーについてでした。

1970年代、英国ではすでに将来5万人の人がアスベストで亡くなると予測されていましたが、TBA社内では疫学者ジュリアン・ペトやリチャード・ドールら御用学者から与えられる情報が全て共有され、彼らの意見はアスベスト産業の国際ロビー機関であるAIA（the Asbestos Information Committee）から報道機関へのプレスリリースに使用されていました。1977年にジュリアン・ペトがTBA社のシニアマネージャーに送った私信の中で、集会において「欠陥資本主義者」と非難されたことを自慢していますが、これは、がん研究者とアスベスト会社の間に友情の絆があったことを示し、人々のアスベストへの心配を払拭するために研究者が利用されていたということでした。

1993年に起草されたBBCラジオの環境中アスベストによる健康被害に関する番組の台本も示されました。その中で述べられているジュリアン・ペトの意見は、「建物に使用されたアスベスト製品にはリスクが無く、リスクがあるという主張はヒステリックだ」というものでした。ジェイソンさんは、このような意見は環境における過去に使用されたアスベストからのばく露の責任を否定する人々にとって非常に有用で、同様の主張は今日のクリソタイルアスベスト業界でも行われているということでした。ジュリアン・ペトは現在でも影響力を持っている研究者です。

この他、ジェイソンさんはTBA社の1962年の内部記録に「医師たちは正確にアスベスト関連疾患の診察ができない。このことによって、現在、（TBA社は）多くの訴訟や補償の支払いから免れているが、人々が無料の公共法律相談サービスや労働組合の支援にアクセスした場合は訴訟等が増えるのは必然」とあることを紹介したうえで、これまで、アスベスト産業が労働者の権利を守るための労働組合の影響を減らし、国民が自由に法的サービスにアクセスできないようにするため多くの効果的な法的および政策的挑戦をしてきたことを述べさらに、アスベスト産業を含むイギリス経済界は「エコノミック・リーグ」という表に出ない組織を使い、最近まで彼らが破壊的と指定した活動家や労働組合に対してスパイ活動を

してきたことを明らかにしました。TBA社はエコノミック・リーグや他の右派組織にお金をだしていたということでした。

過去から現在まで続く英国産業界右派の動きは最近のBrexit（EUからの英国の脱退）や今年6月14日未明にロンドンの高層住宅「グレンフェルタワー」で起きた大火災の報道にも影響を与えているのではという事でした。

英国右派のBrexitを望む人々は、より少ない国による経済への統制を求めており、健康と安全に関する規則に関しても積極的な施行を望まず、規制緩和を望んでいるということで、右派の政治家や経済人はアメリカの経済界やアスベスト採掘を続けているロシアの経済界ともつながっているということでした。ロシアのアスベストロビーの「もしイギリスがアスベストを禁止していなければ、グレンフェルタワー火災は起きなかつただろう」というコメントが英国の新聞、サンデー・テレグラフのコラムニスト、クリストファー・ブーカーにより紹介された件が、右派の考え方が表面にでた一例として紹介されました。

ジェysonさんは市民運動を組織、ネットワーキングすること続け、お互いにコミュニケーションを取り続け事実を集め続けることが人々の健康よりも利益を優先する産業界に抵抗する方法だと講演を締めくくりました。



メゾテリオーマ・デイで話す宇田川かほるさん

ジェysonさんの講演の後、宇田川かほるさんと野村美雪さんがご自身の体験を話しました。宇田川さんは日本における教員中皮腫患者の労災認定数がとても少ないことや夫の暁さんが病床で「息が欲しい」と苦しみながら言っていたこと、暁さんの労災が認められず、7年間裁判闘争をしていることを話しました。

野村美雪さんは夫の光弘さんが大学時代にアスベスト含有建材の切断をするアルバイトをしたことが原因で中皮腫を発症し47歳で亡くなったこと、労災認定されたものの、中古車販売業を



アクションメゾテリオーマデイで話す野村美雪さん



スピーチの後で

経営していた40代の所得でなく、アルバイト時代の所得をもとにした平均賃金で労災の給付日額が決められてしまったこと、あまりにも労災の補償額が少なかったことから、光弘さんがアルバイト時代に働いていた会社に損害賠償裁判を起こすことを決意した

ことや、夫の中皮腫発症の為、長男が大学進学をあきらめるなど家族にも影響がでたこと等を聴衆に向かって話しました。DASTのジョアンさんも私も予定時間を大幅に超えた2人のスピーチにハラハラしていましたが、イギリスの参加者は静かに、黙って日本からのゲストの話しに耳を傾けていました。スピーチの後、共感したイギリスの参加者達から大きな拍手をもらい、宇田川さんや野村さんに話しかけ、抱きしめる方もいました。

集会の最後に「死をもたらす危険な魔物があたりを徘徊している」と始まるSOSという詩が朗読されました（P14～P15に掲載）。

おわりに

今回の英国訪問で日本とイギリスのアスベスト被害の現れ方がとても似ていることを実感しました。そして、アスベスト産業のロビーが今でも行われていることを知り、驚愕しました。

アスベスト被害は性別や社会的な階級等に関係なく人々を襲います。日本ではすでにアスベストが禁止され、日本よりずっと前にアスベストが禁止された英国では the third-wave of victims（第3波の被害者）の問題が出ていますが、日本も同じ状況です。アスベスト被害が拡大し続けているのに、ロシア等のアスベスト産業はいまでもクリソタイルを管理使用すれば安全とインド、インドネシア等のアスベスト大量使用国やヨーロッパでいまだに主張しています。アスベストの世界的禁止までは多くの闘いが続くのだと思いました。

おりしも、この機関紙を編集している最中に、産業医大などの国際研究チームが9月4日、シンガポールで行われた世界労働安全衛生会議で、中皮腫の死者が世界で年3万8000人という新たな推計を発表したとの記事が中日新聞に掲載されました。チームの代表者、オーストラリア、シドニー大学アスベスト疾患研究所の高橋謙所長の「これほど多くの被害をもたらす石綿は、世界中どこでも使用を禁止すべきだ」というコメントも掲載されていました。

世界保健機関（WHO）は、世界中で1億2千5百万人が職場で石綿にさらされており、中皮腫、肺がん、喉頭がん、卵巣がん、じん肺などのアスベスト関連疾患で年間約20万人が亡くなっていると推計しています。

（事務局 成田 博厚）



メソテリオーマ・デイ終了後の記念撮影（前列、右から3人目がジョアン・ゴードンさんで、5人目がDAST議長のデーブ・トリグさん）

★ FORGET-ME-NOT

私たちのことを忘れないで

豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

学校を出たら、首尾よく仕事が見つかった。
働く時間は長いけれど、給料は悪くない。
まじめにやって、腕を磨けば、建具屋はしっかり稼げる。

豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

1 週間、一生懸命働いてもらった初給料。
良いことづくめの魔法の鉱物だと皆が言う。
茶色、白、青の
耐火性の魔法の鉱物を断片にして、
壁や天井や屋根につける。
ふわふわの雪のような埃で、僕らは毎日、雪合戦をする。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

仲間の一人は配管工の見習いだ。
やっぱり、良い仕事につけたと大喜びさ。
管やボイラーを断熱材で包むんだ。
モンキー・マック（=のくそ）って呼んでいるアスベストパウダーを混ぜ込んでね。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

仲間と一杯やろうと立ち寄ったパブで
出会った女の子に一目惚れ。
プロポーズしたら、「いいわよ」って言ってくれた。
いよいよ結婚式だ。すばらしく晴れた日だった。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

月日がたって、相変わらず全てが順調さ。
もう少しで二人目の子供も生まれる。
仕事は前と同じだ。
一生懸命働いて、お金を稼ぐんだ。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

いつのまに年月がたって、子供たちは大きくなり、
巣立っていった。
うちに残っているのは妻と私の 2 人だけだ。
2 人で何をしようとあれこれ考える。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいと思っていた。
何の憂いもない、バラ色の人生。

今日、配管工だった仲間に会ったら、
具合が悪いと言っていた。
咳が出て、息苦しくて、
歩くのもままならないって。

ああ、ぼくもどこかおかしい。
一晩中寝汗が出るし、
息をするのが苦しくて、いつもけだるい。
医者に行ってみることにした。たいしたことがないといいんだが。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいだった。
でも、今はお先まっくらの暗い人生さ。

ぼくのことを診察した医者は浮かない顔だった。
「アスベストを使う仕事をしたことがあるかね」と聞くから、
「ええ。」と言って、仕事のことを話したさ。
医者は私のことをじっと見つめて、頭をかかえた。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいだった。
でも、今はお先まっくらの暗い人生さ。

検査を受けに行くことになった。付き添ってくれたのは、
他でもない、仲間の元配管工さ。人生はうまくいかないもんだ。
家族を養うために、毎日、必死で働いたんだ。
その拳句、今になって悪性中皮腫だなんて。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいだった。
でも、今はお先まっくらの暗い人生さ。

この無言の殺し屋は長い間、体の中にじっと潜んでいた。
そして、今や、我々の運命を封印してしまった。
こいつが姿を現すまで何十年かかったやら。
簡単な検査でわかると良かったのに。
豊かな暮らし、良い仕事、幸せいっぱいだった。
でも、今はお先まっくらの暗い人生さ。

人生は貴い。だから私はあきらめない。
人間としての権利、そして、道徳的な権利を求めて、
前向きに生きるしかない、残された生にしがみついて。
でも、どうか、私たちのことを忘れないで。

(DAST ボランティア Audrey Carilin の詩の簡略版)

FORGET-ME-NOT

Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad

Just left school; a job's come my way
The days are long but I get good pay
I'm a Joiner and there's good money to earn

As long as I'm willing and prepared to learn
Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad

Worked hard to earn my first week's pay
Sawing up stuff that they say
Is a magic mineral, too good to be true
It comes in brown, white and blue
A magic mineral that's fireproof
For walls and ceilings and in the roof
With dust like snow and so we play
Making snowballs every day
Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad

My pal is working as a Plumber's mate
He also thinks his job is great
Lags pipes and boilers , can't believe his luck
Mixes asbestos powder they call monkey muck!
Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad

Off to the pub for a pint with my pals
I've met a girl; she's just the one
I've proposed to her and she said " yes"
The big day arrives and we wed in the sun
Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad
Time goes by and life is great
Our second child is on the way
Still working hard in the industry
Working hard to earn my pay
Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad

The years roll by, the kids have grown
From the family nest they now have flown
Just my wife and I are left at home
So we plan our future on our own
Good life, good jobs, good times to be had
Life looks great, nothing is bad

I saw my mate the Plumber today
He said he wasn't well

He had a cough and was short of breath
And said to walk it was just like hell
Alas I too do not feel right
I'm having sweats all through the night
It's hard to breathe, I feel so weak
I'm off to the doctors, hope the future's not bleak
Good life, good jobs, good times I've had
Life looks grim, everything is bad

Have seen the doctor his face looked grim
Have you worked with asbestos he said
Oh yes, I have, I explained to him
He stared at me and held his head
Good life, good jobs, good times I've had
Life looks grim, everything is bad

Went for tests and who should be there
My mate the Plumber, life isn't fair
Every day we've worked hard to care for our family
And now they tell us we have Mesothelioma
Good life, good jobs, good times I've had
Life looks grim, everything is bad

The silent killer has lain in wait
But now it's sealed our fate
Years it's taken to manifest
If only there was a simple test
Good life, good jobs, good times I've had
Life looks grim, everything is bad

Life is precious, I won't give up the fight
For what is my human and moral right
I will stay positive, cling to what I've got
But please do not "forget-me-not"

(Abridged version of a Poem written by Audrey Carlin, DAST Volunteer)

☆SOS



死をもたらす危険な魔物があたりを徘徊している。
誰も見たことがなく、目に見えず、音も立てない手は、

炎や焼け焦げるような熱から我々を守ってくれる。
でも、この荒唐無稽な詐欺師にだまされないよう用心せよ。
そのまま放っておけば、そいつは何も悪さをしない。
でも、そいつをいじったら、おおごとになる。すぐに警鐘を鳴らせ。
微小な繊維が空気中に広がり、
あらゆる表面に積もるのだ。
無防備な肺に入り込んで、
侵食を始める。
なかなか症状は出ていないが、ゆっくりと、確実に、
癌がやってくる。そして、それを治療する手立てはない。
その粉塵が飛んだのはどこだ。いつだったのか。
誰のせいだ。何を突きとめられるのか。
次々に疑問が湧いてくる。そして、その答えは衝撃的だ。
以前にあれほど誉めそやされたアスベストが今、大変な騒ぎを起こしているというのだ。
子供たちのいる学校や我々の働く職場で、屋根や壁に危険が潜んでいる。
これがわかったからには、もう不安でいっぱいだ。
未来の世代を守るために、アスベストを取り除かねばならない。

SOS

A Dangerous killer stalks our land
Unseen invisible a silent hand
That protects from flames and searing heat
But beware of this preposterous cheat.
If undisturbed it does no harm,
Disturb it-then sound the alarm-
Minute fibres pollute the air
To settle all around us, everywhere,
Invading the unsuspecting lung
And there the damage has begun.
No symptoms yet though slow but sure
Comes the cancer, and there is no cure.
Where and when were the fibres about?
Who can we blame? What can we find out?
So many questions and it comes as a shock
That the once-prized asbestos has caused such havoc.
In roofs and walls the danger will lurk
Where children are in school, in our place of work.
There is no place of mind now that we know
And to protect the future, must go.

★事務局からのお知らせ

★「宇田川さんの学校アスベスト裁判」傍聴のお願い

日時：9月19日（火）13:45～

場所：名古屋高等裁判所

傍聴をよろしくお願い致します。

※裁判終了後、桜華会館にて報告集会を行います。

※その次の裁判は、12月5日（火）14:45です。傍聴をよろしくお願いいたします。

★「伊藤光保遺稿集」ご希望の方へ

会員の皆様には、以前、前代表伊藤光保先生の遺稿集を配布いたしましたが、現在在庫がいくらかあります。ご希望の方がいらっしゃいましたらお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

労職研の活動



| 7月 | | 8月 | |
|--------|-------------------------|-----|------------------------|
| 1日 | 東海在日外国人支援ネットワーク総会 | 1日 | 東海在日外国人支援ネットワーク会議 |
| 4日～11日 | イギリス中皮腫・アスベスト疾患患者との交流 | 2日 | 厚生労働省折衝 |
| 13日 | 名古屋労職研事務局会議 | 4日 | 静岡アスベスト国賠裁判傍聴 & 記者会見 |
| 15日 | 石綿全国連 30周年国際会議 & 総会 | 10日 | 名古屋労職研事務局会議 |
| 20日 | 宇田川さんの学校アスベスト裁判傍聴 | 19日 | 高木ひろし友の会ビアパーティー |
| 23日 | 新潟中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会会議 | 27日 | 中島弘象さんを囲んでフィリピンを考える座談会 |
| 27日 | 名古屋労職研事務局会議 | 31日 | 名古屋労職研事務局会議 |
| 28日 | アスベストユニオン会議 | | |

【労職研 会費・カンパ振込先】

郵便振替 口座番号 00860-5-96923

加入者 名古屋労災職業病研究会

発行 名古屋労災職業病研究会

発行者：森 亮太

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階

Tel./Fax.052-837-7420

e-mail: roushokuken@oregano.ocn.ne.jp

http://nagoya-rosai.com/